

都市計画マスタープランの 取り組み状況

都市計画マスタープランは、昨年9月から取り組み、同12月には「都市の将来像」について住民アンケートを実施しました。その後、市民の代表や学識経験者などで構成する策定委員会を2回開催して、現状を分析し、市の将来像や地域の魅力、課題などの議論を重ね、理解を深めています。

また、総勢105人によるワークショップを地域ごとに3回開催し、実際にまちを歩きながら、思いを託した「夢地図」の作成に取り組んでいます。今後は、夢の実現に向けてできることは何かを考え、「みんなでつくるまち」の成果を発表する予定です。このような市民参加によるコミュニティの創造を、安全・安心で夢と希望の持てる将来像へ結び付けたいと考えています。

こうした住民参加型のワークショップとリンクする形で、庁内検討委員会や作業部会を開き、具体的な土地利用の方向性などを精査しており、今後は全体構想や地域別構想のとりまとめを行うことにしています。

都市計画マスタープランは、来年3月までに策定予定で、経過は広報やホームページで「まち育てニュース」として市民の皆さんにお知らせします。

広報・ホームページへの 広告掲載が始まります

新たな自主財源の確保と地域経済の活性化を目的に、広報大館への紙面広告と

市のホームページへのバナー広告を10月から実施します。

広報大館への広告掲載は、10月1日号から来年4月1日号までの7回分を一括して広告代理店に買い取っていただく方式で8月14日まで募集したところ、2社から応募があり、43万4千円で申込みがあった業者に決まりました。

バナー広告は、ホームページ上に10枠を確保し、10月から来年3月までの6カ月間、1枠当たり月額1万円で、9月から広告主を募集する予定です。

今後、この2つの有料広告事業が軌道に乗れば、順次他の広告媒体への広告掲載を検討します。

環境マネジメントシステムの 登録を更新しました



ISO14001規格に基づく大館市環境マネジメントシステムは、7月10日から12日までの3日間、登録の更新と両総合支所へのシステムの適用範囲拡大に伴う審査を受けました。

審査員からは、新大館市が目指す「21世紀に飛翔する環境先端都市」の実現に向け、積極的かつ着実に実践されている

と高い評価をいただきました。審査の結果、規格に適合しているとの判定を受け、8月25日付けでシステム登録の更新と適用範囲拡大の決定をいただきました。

今後は、両総合支所の所管する施設及び環境センターなどへ計画的に環境マネジメントシステムを導入し、全ての施策事業において、環境面での継続的改善を進め、環境先端都市の実現に取り組んでいきます。

市内外の応援団とともに 企業誘致活動を進めます

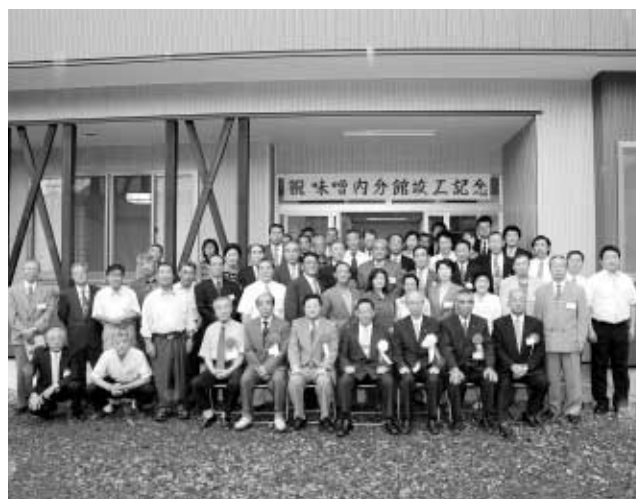
市では、産業振興と雇用の拡大を図るため、企業誘致活動を積極的に進めています。

8月3日には、「秋田県・県内市町村と首都圏企業との懇談会」が開かれ、市内誘致企業本社のトップ等と懇談し、情報交換を行いました。翌4日には、首都圏在住の本市出身者に委嘱している「大館市企業誘致協力員」との情報交換会を開き、率直な意見交換を行ってきました。

8月21日には、「大館市の企業誘致をすすめる会」が、市内60の企業・団体の参加を得て設立されました。この会は、本市の「地域特性」と「地元企業の強み・技術力」を融合し、新しい企業誘致を進めていくことを目的としています。本市にとつて、強力な応援団ができたことに感謝し、今後は、一体となった企業誘致活動をさらに強力に進めます。

比内公民館味噌内分館が 完成しました

比内公民館味噌内分館は、旧東館小学



校味噌内分校校舎を使用していました。老朽化が著しいことから旧比内町時代に改築が計画され、合併特例債事業として本年1月に着工し、6月30日に完成しました。

7月22日には、地元実行委員会主催で竣工祝賀会が行われ、公民館関係者や地区住民の方々が大勢参加しました。今後は、地元からも分館運営にご協力をいただき、地域コミュニティの拠点施設として有効に活用していただきたいと思います。

そのほかの報告

鹿児島県南種子町との友好交流、平成17年度市税等収納状況と未収債権の取り組み、中心市街地の活性化、ジャスコ大館店の閉店、地域雇用創造調査研究事業第39回大館大文字まつり、第41回大館の里ふるさとまつり、農作物の生育状況等について、比内地域一通常集落の渇水対策公共事業の進捗よく状況